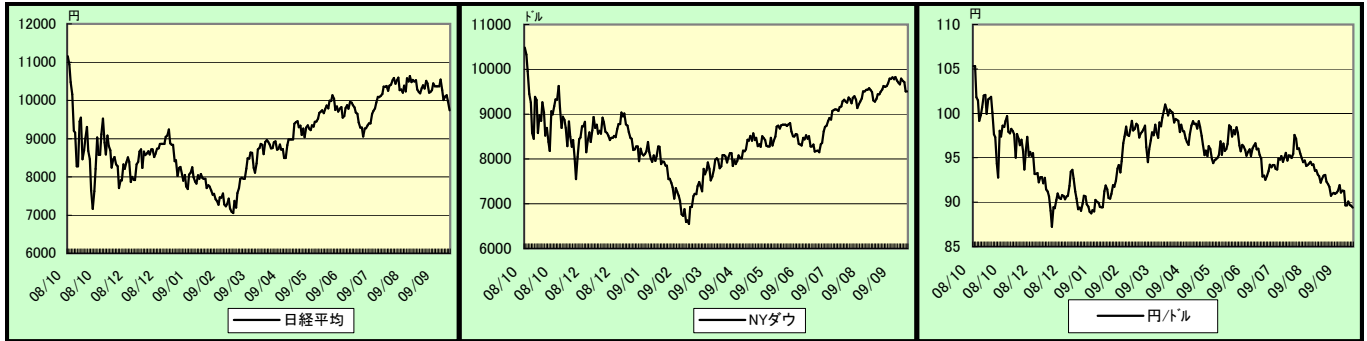


1. 日米株式と円/ドルの推移(チャートは過去1年)

<日本株>

<米国株>

<円/ドル>



	単位	2008/12/31	2009/9/30	2009/10/2	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,859.56	10,133.23	9,744.56	18,300.39	2007/2/26	6,994.90	2008/10/28
NYダウ	ドル	8,776.39	9,712.28	9,509.28	14,198.10	2007/10/11	6,469.95	2009/3/6
円/ドル	円	90.64	89.70	89.41	124.13	2007/6/22	87.13	2009/1/21

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

2. 日本株市場の振り返り

先週の振り返り	<大幅下落、日経平均は2ヶ月ぶりに10,000円を割込む展開>	
	先週の日本株市場は、日経平均が▲534.11円(▲5.20%)、TOPIXが▲48.00ポイント(▲5.20%)と大きく下落しました。業種別にみると、ほとんどの業種が下落した中、空運業、電力・ガス業のみが上昇し、下落率上位にはその他金融業、証券・商品先物取引業といった金融関連の業種が並びました。週初、藤井財務相の円高容認発言などからドル円が一気に88円台まで進んだことを受けて、輸出関連企業を中心に売り込まれ、日経平均は一時2ヶ月ぶりに10,000円を割込む展開となりました。その後週央にかけては、藤井財務相の為替介入を否定しないといった発言もあり、ドル円、日経平均とも一旦持ち直す展開となりました。しかし、依然円高懸念が根強く残ることに加え、①亀井郵政・金融担当相が主導するモロトリアム法案への警戒感、②米国においてISM製造業景況指数など予想を下回る経済指標の発表が相次ぐ中、株式市場が調整色を強めたことなどから、日経平均は週末にかけての2日間で400円を超える下落となり、10,000円を再び割込む展開となりました。	

3. 今週の主な予定(日米)

日程	曜日	国	項目		前回
10月5日	Mon	米国	ISM非製造業景況指数	9月	48.4
10月6日	Tue	日本	10年利付国債入札		
10月7日	Wed	日本	景気動向指数(先行)	8月	82.5
10月7日	Wed	日本	景気動向指数(一致)	8月	89.8
10月8日	Thu	日本	30年利付国債入札		
10月8日	Thu	日本	経常収支	8月	+1兆2656億円
10月8日	Thu	日本	貿易収支	8月	+4373億円
10月9日	Fri	日本	機械受注(船舶・電力除く民需)(前月比)	8月	-9.3%
10月9日	Fri	米国	貿易収支	8月	-320億ドル

決算発表予定他	米国	決算発表 (7-9月期) 10/6 ヤム・ブランズ 10/7 モンサント、アルコア 10/8 ペプシコ
---------	----	---

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

4. 日本株市場の見通し

今週の見通し	<週末のSQIに向け、下値を試す展開を想定>	
	今週の日本株市場は、マクロ指標やミクロ面での材料が乏しい中、SQIに向けての需給悪から、下値を試す展開を想定しています。下値メドといたしましては、今年の3月安値から8月高値までの38.2%押し水準である9,400円を想定しておりますが、海外株市場や為替の状況によっては、200日移動平均や今年の7月の安値である9,000円が視野に入ってくる可能性も払拭できないのではないかと考えております。ただ米国での決算発表が始まる来週からは、日本株市場も反転が見込まれるため、今週は絶好の買い場ではないでしょうか。	

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、当社といいます)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。